



10月22日開催 東地申第15号 団体交渉を行う！ 品川信号通信設備技術センター庁舎の緑カビの多発を直ちに解消し、 安全で安心した職場環境実現に関する緊急申し入れ

6. 今申し入れに対する団体交渉は2024年10月23日までに開催すること。

(回答)具体的な提起があれば、「労使間の取扱いに関する協約(令和6年10月1日締結)」に則り取り扱っているところである。

➤ 10月23日までの交渉開催を求めた中で期間内の開催となったため、確認して終える。

1. 品川信号通信設備技術センター庁舎におけるカビ発生に対する見解を具体的に示すこと。

(回答)これまでも状況に応じた対応を行ってきたと認識している。引き続き、必要な対応を行っていく考えである。

組 合

- ◆ 状況に応じた対応とは何か示すこと。
- ◆ 職場の安全衛生管理をどう考えているのか。湿度の設定目安・しきい値は無いのか。無いとカビの発生を繰り返してしまう。
- ◆ カビの発生を認識したのはいつなのか。申し入れの前の対応はいつ行ったのか。
- ◆ 移転したのはいつ頃か把握しているか。なぜ、今の庁舎に移転したのか。
- ◆ どうしてカビが生えるのか。

- ◆ 今の状況が良くないのは認識しているのか。
- ◆ 2021年にカビが発生した際には何をしたのか。

- ◆ 事後対応しかないのか。調査はしないのか。

- ◆ 何月に調査したのか。
- ◆ 時期によって全然違う。カビ発生時期にすべき。
- ◆ 調査の必要性は感じないのか。
- ◆ 建物がプレハブであり、立地または建物が悪いのか
専門家の調査を行うこと。事後対策だけでなく、会社
としてやるべきことを講じること。社員が居るのだから
もっと誠意を見せること。
- ◆ 首都圏本部の見解は「カビは無い方が良い」認識か。
無くすためにやっていく気持ちで良いか。

会 社

- カビの発生は承知している。除湿器、布団乾燥機を準備した。
- カビが発生しないのはベストな状態。目安は無い。日によって湿度が変わる。管理は厳しい。その都度の対応となる。
- 2021年となる。申し入れの前は10月7日に除湿器を準備した。
- 2020年でリニア工事に伴う移転である。今の場所になった経緯の詳細は把握していない。
- カビが生える調査は湿度など様々合わせている。空調ではなく冷暖房だけなので除湿器等で対応している。
- カビが生えていない状態もあり、通常である。
- 2021年は畳の清掃を行った。休養室のカーペットを変え、サーキュレータを設置した。
- 事後処理しかできない。2022年から2023年に調査したが、温度と湿度が高くないため分からなかった。
- 時期までは分からない。
- 菌の検査は健康推進センターの意見を聞いて行った。2Fは清潔空間と認識している。1Fは一部が準清潔区域である。女子休養室は数値が高いため、使用停止にしている。
- 何かしらの調査、対策は考えていきたい。
- 前向きに検討する。
- そうである。一致している。



10月22日開催 東地申第15号 団体交渉を行う！

品川信号通信設備技術センター庁舎の緑カビの多発を直ちに解消し、

安全で安心した職場環境実現に関する緊急申し入れ

2. 品川信号通信技術センター庁舎におけるカビ発生における対応について具体的に示し、抜本的対策を行わない理由を明らかにすること。

(回答)除湿器の設置や備品の取替等、状況に応じた対応を行ってきたところであり、引き続き、必要な対応を行っていく考えである。また、品川信号総合事務所への移転を進めていく考えである。

組 合

- ◆ 除湿器設置だけでなく、抜本的対策をやってこなかったのはなぜか。
- ◆ 修繕は現場長の考えで行ったのか。
- ◆ 2024年8月にカビが生えたロッカー室の対策はしていないのか。
- ◆ 小手先の対策ではカビは解消されない。抜本的ではなく応急処置である。
- ◆ これらの対策は安全衛生で議論されたのか。
- ◆ カビ除去の清掃等はどう考えているのか。
- ◆ 女性社員の休憩室についてはどうするのか。
- ◆ 電気ユニットに修繕の依頼等の話は無いのか。
- ◆ 職場の社友会の掲示に「要望が通った」と書かれているそうだが、安全衛生の議論ではないのではないか。
- ◆ 7月に議論し対策していればカビは対処できたのではないか。なぜ行動に移さなかったのか。
- ◆ 男性ロッカーに除湿器が追加されたのはどの場面か。
- ◆ 安全衛生の議論が浸透していないという認識を首都圏本部は持つべきである。
- ◆ 2021年頃から言ってきた。何もやってないわけではなく足りていない。だからカビが毎年生えて、申し入れにまで至っている。
- ◆ 移転の前にできることがあった。カビが生えている原因の調査と健康被害の検査である。
- ◆ 対応策、カビの除去も行うことで良いか。

会 社

- 天井剥がし等は行った。全てではない。発生した場所に行った。
- そうである。
- ロッカーにカビが生えたのではなく、中身に生えている。除湿器を設置した。
- 改修まではしないが、当面使用するので前向きには考えていく。
- そうである。産業医も意見を聞いている。
- 環境アクセスと話している。予算の関係もある。
- 休憩はメセを使用するように手配している。
- 電気ユニットまで話は来ていない。
- 直近では7・8・9月の安全衛生で議論されている。
- 議事録の内容は上がっているが、職場の対応までは把握していない。間に合わなかったかもしれない。何もやっていないわけではない。
- そこまで把握していない。
- 安全衛生なのか、どこなのかが大事なのではなく、そういう意見があって反映することが大事ではないか。
- 我々としても対策は打ってきた。遅れたかもしれないが、足りなかったこともある。
- 抜本的には移転を考えている。
- カビの原因の調査は前向きに検討する。健康被害については健康推進センターの推奨検査なので疑う余地はない。
- 検討する。



10月22日開催 東地申第15号 団体交渉を行う！

品川信号通信設備技術センター庁舎の緑カビの多発を直ちに解消し、

安全で安心した職場環境実現に関する緊急申し入れ

3. 健康被害や業務運営上支障を受ける社員が相次いでいることから、直ちに品川信号総合事務所(品川現業 D 棟・旧品川信号技術センター)に移転すること。尚、直ちに移転が出来ない場合は可及的速やかに民間ビル等の事務所環境が法令に準拠できる箇所に移転を行うこと。

(回答)品川信号総合事務所への移転を進めていく考えである。なお、移転時期については現在調整中である。

組 合

- ◆ 具体的に移転についてどのような調整をしているのか。
- ◆ 来年の梅雨、夏の湿度が高い時期を越えるがどう考えているのか。
- ◆ 田町運輸区の移転はいつか。
- ◆ 仮の庁舎移転は考えていないのか。
- ◆ 休養室対応として民間のホテルは考えているのか。
- ◆ カビが生える時期など現場長の柔軟な判断について電気ユニットとして否定はしないという事で良いか。
- ◆ 田町運転区移転時に仮設庁舎を建てれば移転は無かった。最終判断が電気部だった。今後、電気の職場が面倒にならないような運用をしないように会社として総体で社員の働きがいを創出したうえで判断すること。

会 社

- 移転については予算の調整中であり、来年秋を目途としている。
- 梅雨までに対策・調査をしていく。
- 4月以降になる。
- 別の場所の議論は有ったが、面積・機材の事を考慮した結果である。
- 使えるが、休憩室が足りない場合を想定している。現場長判断である。
- 否定はしない。
- 会社全体の総体として判断が下されたが、今後は調整していきたい。

4. 品川信号通信設備技術センター各メンテナンスセンターにおけるカビ発生に対して、直ちに調査および抜本的対策を行うこと。

(回答)これまでも状況に応じた対応を行ってきたと認識している。引き続き、必要な対応を行っていく考えである。

組 合

- ◆ メセの対応はどうするのか。
- ◆ メセのカビの原因は何か。
- ◆ 調査は行わないのか。
- ◆ リネン室、大部屋にもカビが生えている。修繕をお願いしたい。構造・環境の問題が有る。建築フィールドセンターは知っているから専門家に調査を依頼すべきだ。

会 社

- 品川メセの天井の張替えを行う。
- 湿気ではないか。技セとは異なる。
- 考えていない。
- 大部屋については事実確認を行う。メセの調査は考えていない。あまりにもひどい場合は考える。



10月22日開催 東地申第15号 団体交渉を行う！

品川信号通信設備技術センター庁舎の緑カビの多発を直ちに解消し、

安全で安心した職場環境実現に関する緊急申し入れ

5. カビ発生に伴い、貸与品および供与ロッカーに収容している私物等にカビ被害が出ている社員に対して、カビ発生への抜本的対策を行わなかった会社の責において弁済等の対応を速やかに行うこと。

(回答)これまでも状況に応じて備品等の交換を行ってきたところである。

組 合

- ◆ 備品の交換とは何か。
- ◆ 私物についてはどう考えているのか。
- ◆ 仕事で使うベルトなどは貸与品ではないが現場長の判断で購入など、否定するものではないか。
- ◆ 私物是对应しない理由はあるのか。
- ◆ カビが生えたのも個人の管理という事か。
- ◆ 因果関係がはっきりしたら弁償の対象となるのか。
- ◆ 因果関係の調査を求める。布団乾燥機が一日でダメになる。2、3時間においていた服がビショビショになる。早急に願いたい。

会 社

- 休養室ベッド、制服、アノラック
- 今のところは考えていない。保証しない。
- 因果関係等も有るが、状況をよく聞いてもらってとなる。
- 基本的にロッカーの中は個人の管理となる。
- そうとは言えない。
- 明らかに会社の設備が悪ければあるが、現場長の判断となる。

全項目を終え、最後に労使で確認を行う！

組 合

- ◆ 現状職場の声を訴えてきたが、会社として動かないという認識があった。
会社は「動いた」と言うが、対策が生きない限りは抜本的対策が必要とするのが我々現場で汗水たらして働く労働者である。
ある程度対策して結果を確認してもらい、現場から「全然カビが収まっていない」と声が上がったら、さらなる検討をしてもらうことで良いか。
現場長と電気ユニット、職場で働く人たちのコミュニケーションを幅広くとっていただき認識が合うように話しをつくること。

会 社

- 我々もしっかり現場の声は反映していく。

**快適な労働環境と労働条件の改善を通じて
労働者の安全と健康を確保することは、企業としての責務だ！**